

平成23年度広島県「基礎・基本」 定着状況調査の結果

6月14日実施、小学5年生と中学2年生が参加

表1 ◎教科の調査結果

〔小学5年生〕		平均通過率(%)	
教科	庄原市	広島県	
国語	78.0	78.5	
算数	77.2	77.8	
〔中学2年生〕			
教科	庄原市	広島県	
国語	73.3	73.2	
数学	74.6	74.7	
英語	73.1	71.9	



東城地域では、小・中学校の教員が連携を深め、道徳教育を推進しています。

表2 ◎質問紙調査における調査結果(抜粋)

「よくあてはまる」「ややあてはまる」と肯定的に回答している割合

設問	小学5年生		中学2年生	
	庄原市	広島県	庄原市	広島県
学校の授業の復習をする	72.4	60.4	60.6	52.0
地域や子ども会などの行事に参加している	85.7	67.8	56.6	42.6
自分にはよいところがある	70.3	73.9	65.9	60.5
自分のよさはまわりの人から認められている	50.2	58.0	54.3	48.8
平日1日にテレビやゲームを見る時間(3時間以上)	32.3	27.4	40.1	33.7

いすれの課題も、学校、家庭、地域が連携し、改善に向けて取り組むことが必要です。本市は連携教育を軸にし、小学校・中学校の9年間、さらには

「自分にはよいところがある」「自分のよさは認められている」といった心の元気の源となる気持ち(=自己肯定感)は、小学校5年生は低く、中学2年生は高い結果となっており、小・中学校の児童・生徒に共通して、テレビ、ゲームの時間が長いことが挙げられます。自己肯定感が低くなり、否定感が大きくなると「自信」が育たなくなり、何に対しても気力が低い状態に陥ります。また、テレビ、ゲームの時間が長いことは、家族でコミュニケーションをとる時間が少なく、家庭学習や読書をする時間が少なくなることにつながります。

また、表2から家庭で授業の復習が定着していることが分かります。地域や子ども会などの行事に参加している児童・生徒が県平均を10ポイント以上上回っており、子どもたちが地域の多くの人と出会い、さまざまな経験を重ねて育っていることを表しています。

表1から、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していることが分かります。また、表2から家庭で授業の復習が定着していることが分かります。地域や子ども会などの行事に参加している児童・生徒が県平均を10ポイント以上上回っており、子どもたちが地域の多くの人と出会い、さまざまな経験を重ねて育っていることを表しています。

表1から、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していることが分かります。また、表2から家庭で授業の復習が定着していることが分かります。地域や子ども会などの行事に参加している児童・生徒が県平均を10ポイント以上上回っており、子どもたちが地域の多くの人と出会い、さまざまな経験を重ねて育っていることを表しています。

3者の連携を軸にした 学校教育を推進

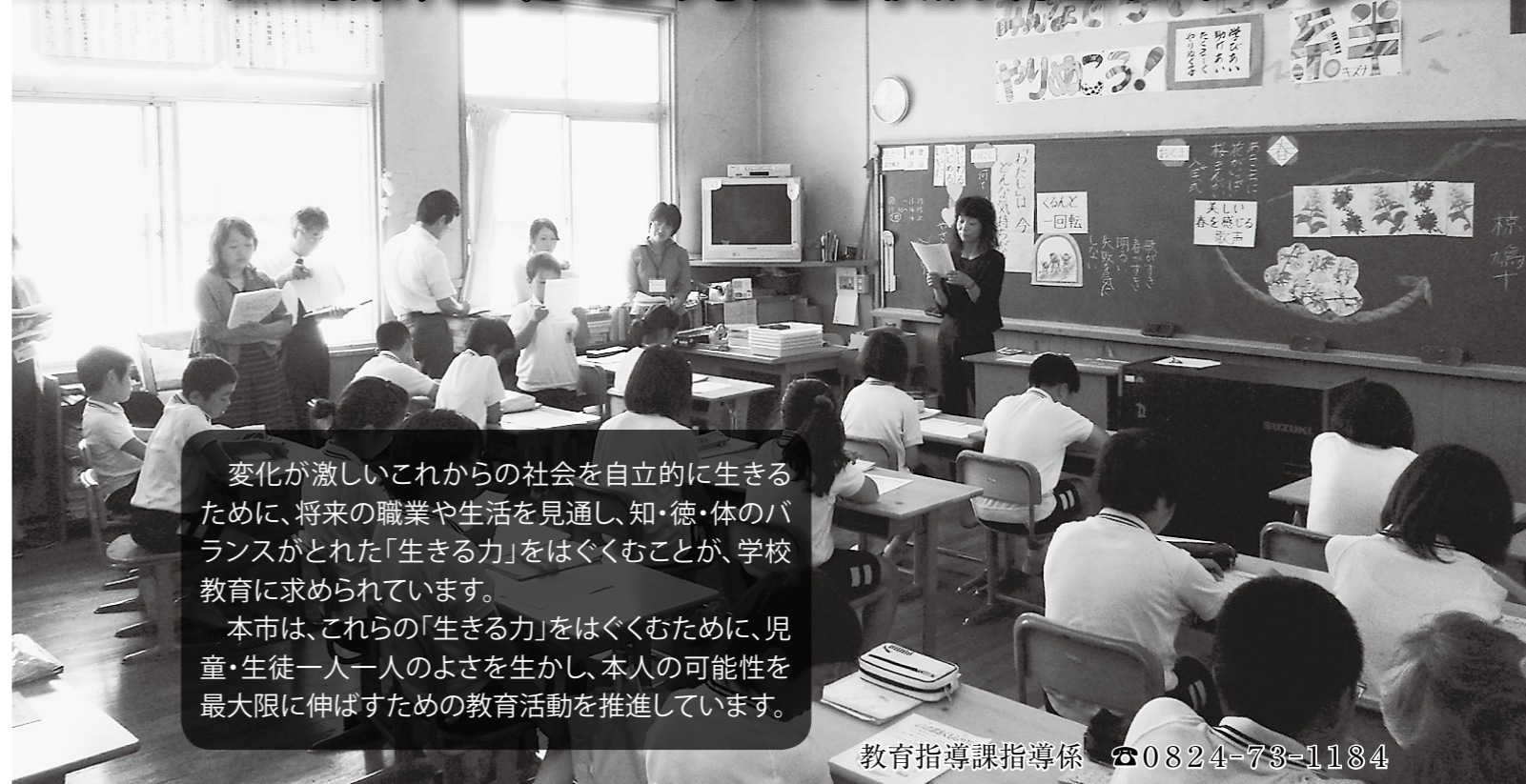
保育所幼稚園から高校までを見通して、発達段階に応じたつながりのある教育を推進しています。また、地域の実態を踏まえて課題を共有し、地域の特性を生かした一貫性のある指導に取り組んでいます。

比和地域の取り組み

比和地域では、比和保育所・比和小学校・比和中学校の連携を深め、学校行事や授業改善に取り組んでいます。具体的には、①それぞれの学校、教科などの特徴を生かしながら、同じ進め方で分かりやすい授業を行う、②中学3年生の保育実習や小・中合同クローン活動などの、園児・児童・生徒のつながりを重視した行事を実施したり、一貫性のある生活上のルールに沿って生活したりする、などとして幼児期から青年期へ豊かな学びや成長を促す取り組みを進めています。



学校・家庭・地域の連携で課題に取り組む —広島県「基礎・基本」定着状況調査結果から—



変化が激しいこれからの社会を自立的に生きるために、将来の職業や生活を見通し、知・徳・体のバランスがとれた「生きる力」をはぐくむことが、学校教育に求められています。
本市は、これらの「生きる力」をはぐくむために、児童・生徒一人一人のよさを生かし、本人の可能性を最大限に伸ばすための教育活動を推進しています。

教育指導課指導係 ☎0824-73-1184



自分の考えをグループ内で交流し合います。

- 1 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し解決する力
- 2 自らを律しつつ他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- 3 たくましく生きるための健康や体力

広島県が行う「基礎・基本」定着状況調査は、児童・生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、その調査から明らかになった課題に基づいて指導改善を行うための基礎資料となるもので、平成14年度から実施していま

本市の現状と今後の取り組み

今回は、その調査の中から教科調査と質問紙調査の結果をお知らせするとともに、これを基にして本市の小・中学校の現状と今後の取り組みの方向性をお知らせします。



比和地域では、小・中学校合同合唱などを行い、児童・生徒の連携を深めています。